

## 夏季におけるセアカゴケグモ生息状況調査の結果について

○伊藤<sup>いとうゆうこ</sup>裕子 野々川真美子 林住江 栗本高志  
(生活衛生センター)

### 1. 目的

セアカゴケグモは本来熱帯・亜熱帯に生息するクモであるが、平成 17 年度に初めて名古屋市内で発見されて以来、その発見例は増え続けており、発見地域も広がっている。このような状況の下、生活衛生センターでは、平成 26 年度の冬季にセアカゴケグモの生息が確認された場所において平成 27 年度の夏季に再度調査を行い、生息状況の違いについて調査したので報告する。

### 2. 調査の概要

平成 26 年度の冬季にセアカゴケグモが発見された地点(複数の場合はその中間地点)から半径 20m 範囲を詳細に調査した。目視が困難な場所においてはピレスロイド系エアゾール剤を用いて出てくるクモを確認し、セアカゴケグモであった場合には捕殺する。また卵のうが確認された場合は適切に処理した。

### 3. 結果

調査日時	調査場所	夏				冬			
		♀成体	♀幼体	♂	卵のう	♀成体	♀幼体	♂	卵のう
8/12	小学校 A	11 (-7~17cm)	44 (-10~-2cm)	4 (-10~-2cm)	3 (-10~-2cm)	0	4	0	0
8/21	中学校 A	10 (-2~75cm)	10以上 (75cm)	3 (38~75cm)	3 (-2~75cm)	3	6	3	0
8/31	小学校 B	3 (2~30cm)	7 (2~10cm)	1 (30cm)	—	1	0	0	0
9/14	施設 A	8 (-50~25cm)	7 (0~25cm)	1 (0~25cm)	5 (-50~25cm)	3	4	4	0
9/29	公園 A	4 (-9~30cm)	—	—	2 (-9cm)	3	34	0	0
10/20	市営住宅 A	11 (5~120cm)	16 (0~30cm)	1 (0cm)	18 (5~120cm)	1	9	0	7
10/26	施設 B	17 (0~500cm)	2 (0~44cm)	—	5 (25cm)	1	3	0	0

( )内は基準位置からの高さ

セアカゴケグモの営巣は人の目線よりも低い位置に行われることが多いが、生息密度の高い場所では地上から高い位置でも営巣が見られた。歩道橋頂上の欄干や、建築物の壁面など、何らかの移動物に付着して運ばれたとは考えにくい場所での営巣も確認された。